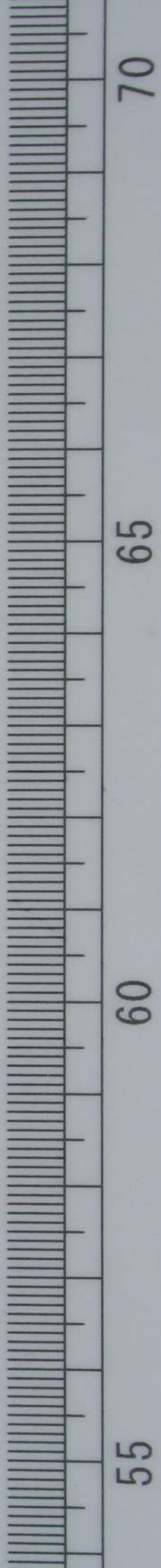
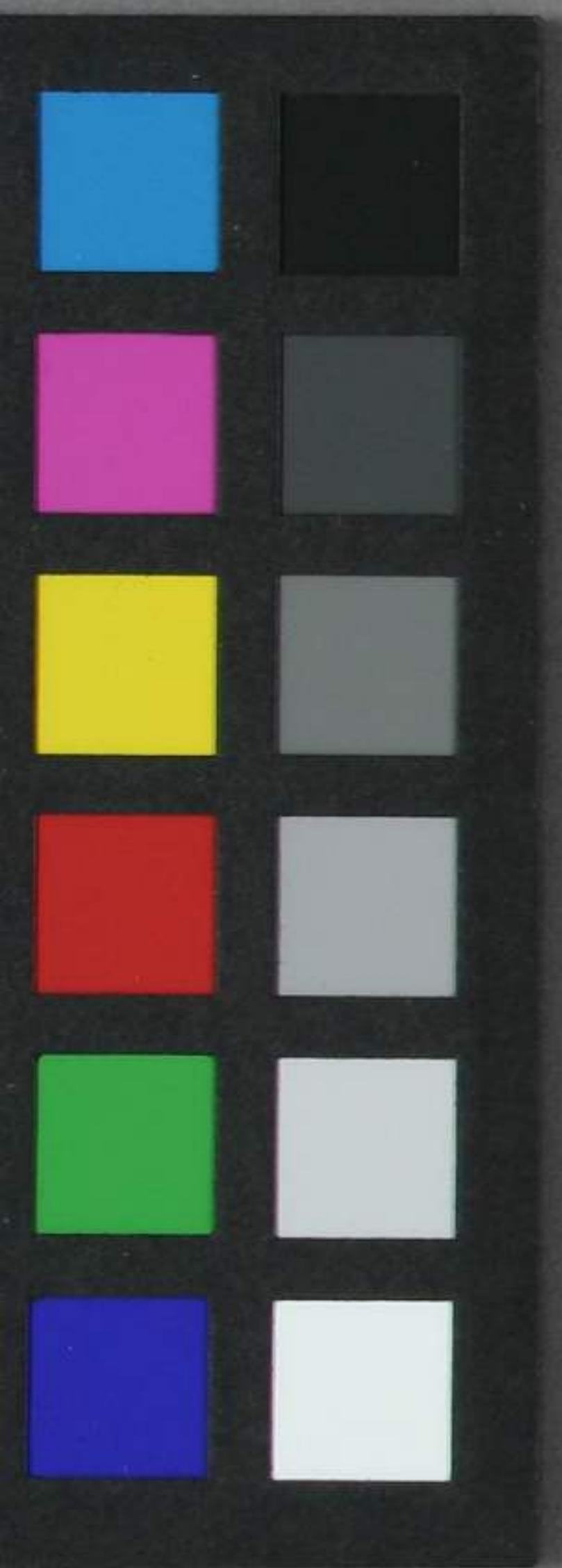
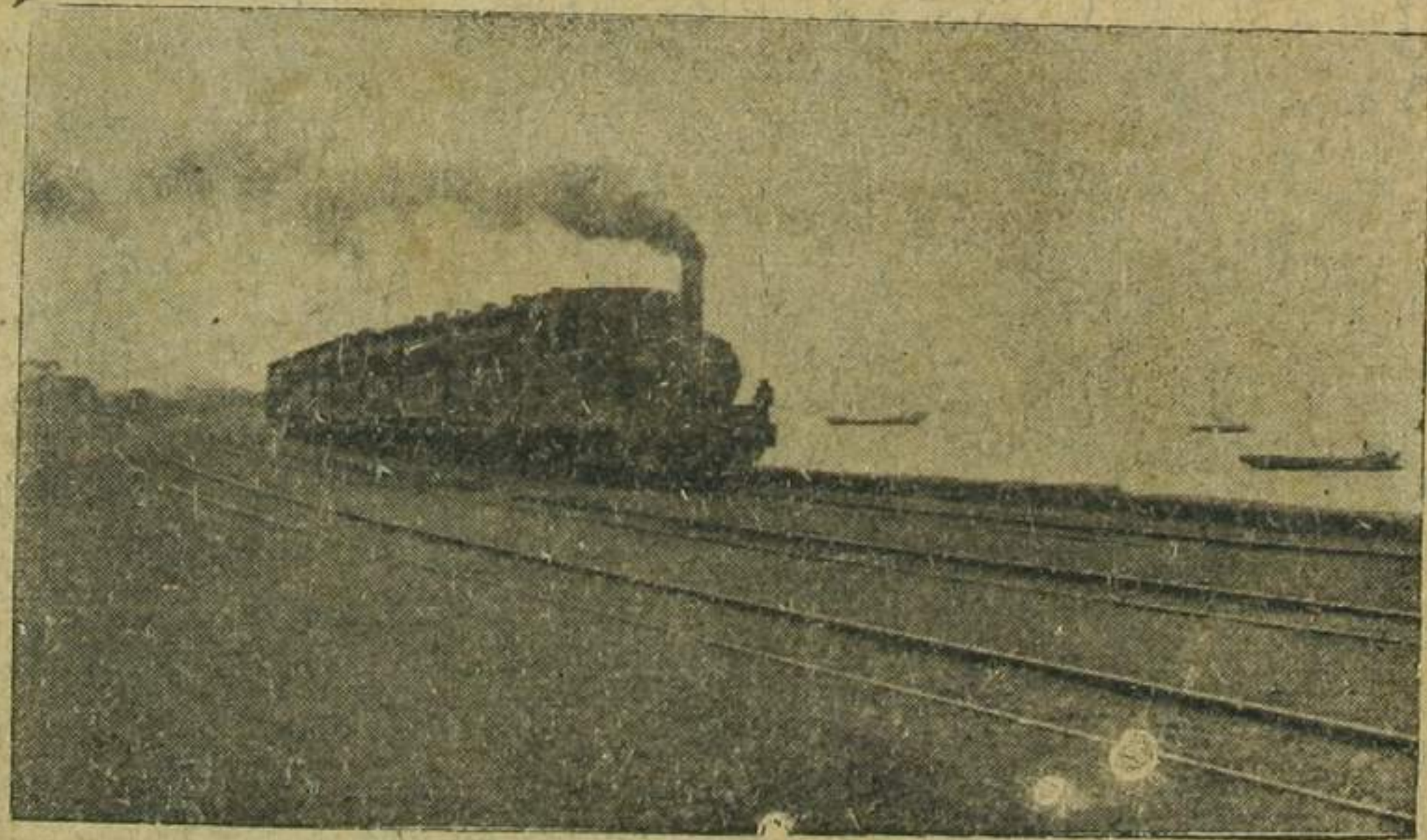
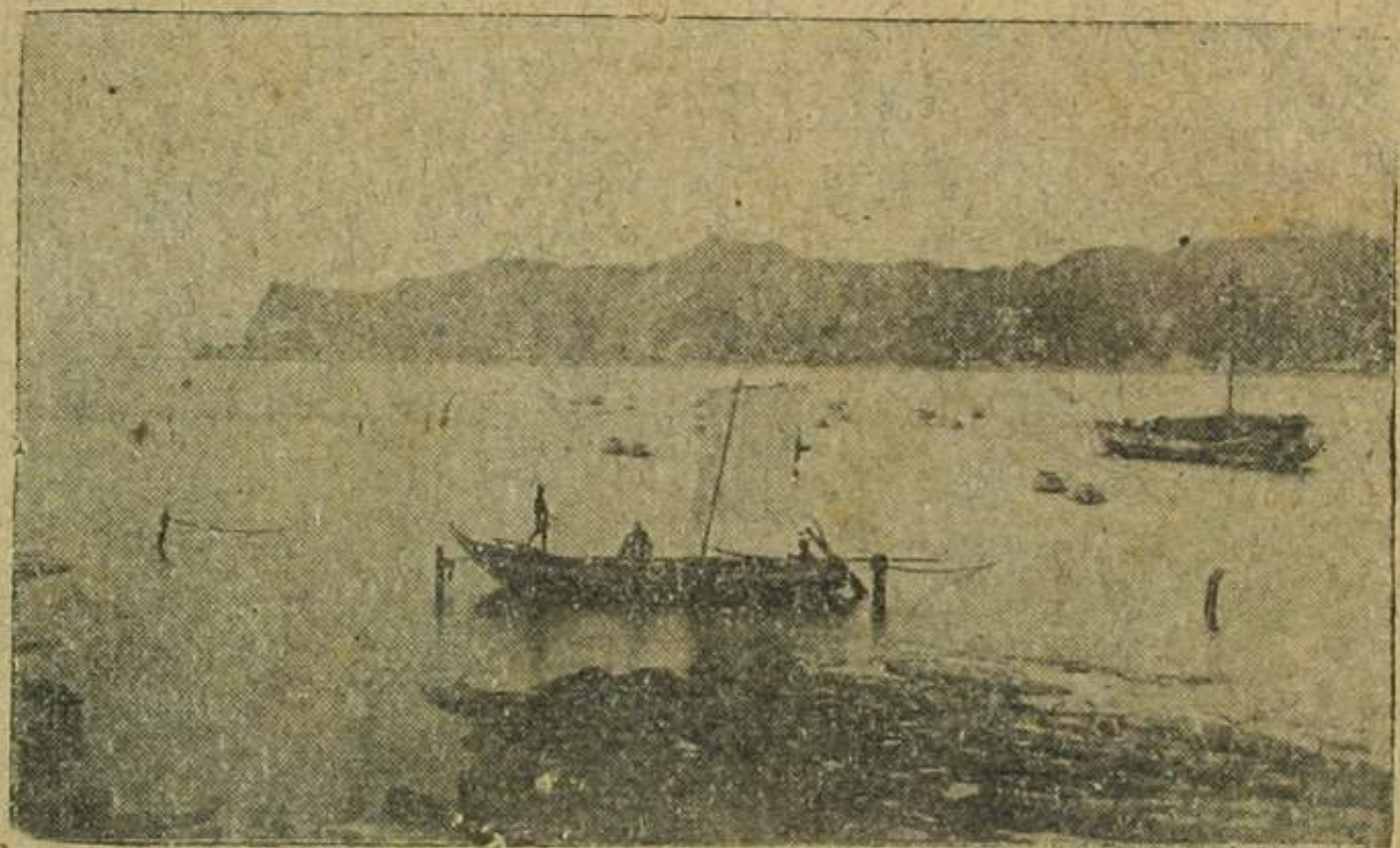


地 理 教 育
鐵 道 唱 歌

第 四 本
所 本
大 原 佐 原
東 金 間





降旗たのへ

地理 教育 鐵道唱歌

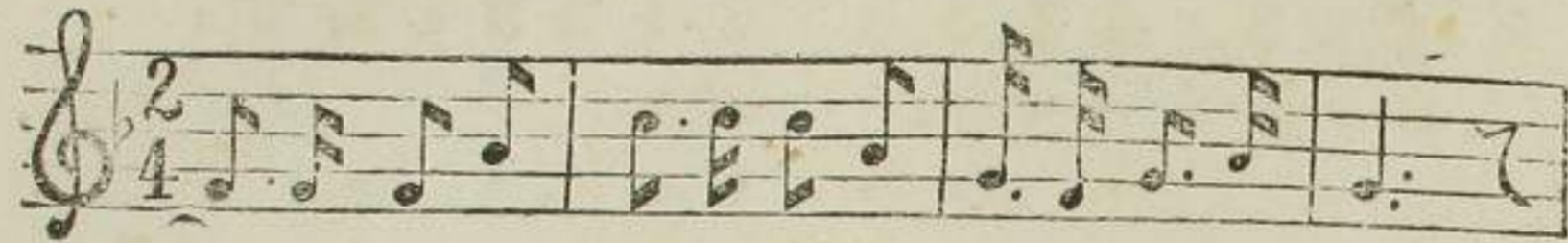
- 第一 上野 青森間
- 第二 上野 前橋 信越間
- 第三 田端 水戸 岩沼間
- 第四 本所 銚子 大原、東金、佐原間
- 第五 新橋 神戶間
- 第六 關西 名古屋、伊勢 網島間
- 第七 米原 富山間
- 第八 飯田町 八王子 甲州間

東京尚榮堂小川刊行

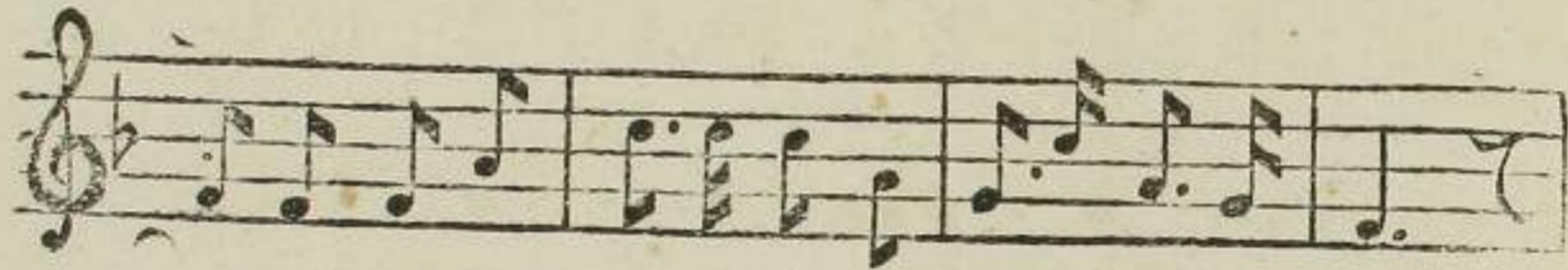
(本符)

〜調

(本所線)



フーエノアヒツニキシリダス
はるかにみーやるかめぬどの



キーシハホソノキンシホリ
もりかけさーしてたちのほる



ハナレヲヒガシニムカフナリ
かまどのけーふりにぎほふは



マー下ニカウベサシイダレ
みやこにちーひきまるとなり

(停車場)

本所

竈 遙 離 笛
 の か れ の
 都 煙 森 に 窓 て 汽 相 房
 に り 蔭 見 に 東 車 圖 總
 ち か に さ や か 東 車 は 本 輾 鐵
 か き ぎ し て 龜 戸 を 差 し 出 道
 る ふ は 立 ち の 錦 す 堀
 なり、 上 出 し 絲 堀

(名勝地)

錦絲堀

龜戸天神

(略符)

(本所線)

$\frac{2}{4}$

へ 調

1. 1 1 3 | 5. 5 5 3 | 2. 1 2. 3 | 2. 0 |
 - = - - | - = - - | - = - = |
 フ - エ ノ ア ヒ ツ ニ キ シ リ タ ス
 は る か に み - や る か め ん ど の

1. 1 1 3 | 5. 5 5 3 | 2. 5 3. 2 | 1. 0 |
 - = - - | - = - - | - = - = |
 キ - シ ャ ハ ホ ン ヲ ノ キ ン シ ホ リ
 も り か げ ま - し て た ち の ほ る

5. 5 6 6 | 5. 5 3 1 | 5. 5 5. 3 | 2. 0 |
 - = - - | - = - - | - = - = |
 ハ ナ レ テ ヒ ガ シ ニ △ カ フ ナ リ
 か ま どの け - ふ り に ぎ は ふ は

5. 5 1 2 | 3. 3 5 | 5. 6 5. 5 | 1 - ||
 - = - - | - = | - = - = |
 マ - ド ニ カ ウ ベ ナ サ シ イ タ ヂ
 み や こ に ち - か き ま る し な り

おいてもかゝる臥龍梅
水に映れる藤の花
其の音も高き大鼓橋
春夏かけて都人
つどふ名所はかしこぞこ
いふ間もあらずつきづくに
平井小岩を過ぎ行きて
まづ市川にいたるなり、

臥龍梅園

大鼓橋

江戸川

南に折れて川傳ひ
二里を下れば海人が焚く
鹽の煙りに行徳の
賑ふさまぞ愛度きや、
北に望むは國府臺
斷崖水際に壁立し
天然堅固の城廓は
道灌陣所を構へし地、

行徳町

國府臺

中山

左ひだりに近ちかく中山なかやまの

五重ごじゆうの塔たにそれなりと

祖師そしの御堂みだうの影見かげみえて

太鼓たいこの音ねも聞きゆなり、

八幡はつぱん不知しじの森もりと聞きく

竹たけの林はやしも遠とほからず

廣野ひろの吹ふき來くる朝東風あさこちに

かどでの勇氣ゆうきまさるなり、

祖師堂

八幡不知

船橋

船橋ふなばし驛えきの東北ひがしきた

大和やまと武夫たけおを習志野なるとの

原はらは陸軍練兵場りくぐんれんべいばう

津田つた沼ぬま幕張まくさ稻毛いなぎ驛えき

松風まつかぜ清きよき夏なつの日ひは

海水浴かいすいよくもおもしろし

千葉ちばは千葉氏ちばしの舊地きうちにて

今縣廳いまけんちやうのあるところ、

習志野

津田沼
幕張
稻毛

千葉

はるく來ぬる旅人の
袖ふきはらふ袖ケ浦
誰が脱ぎ懸けし羽衣の
松に昔の忍ばれて
月に聲ある秋の宵
歌よむ人をふかすらん
房總線は乗替こ
呼ばれて移る寒川や

袖ケ浦

思ケ浦に立つ煙り
君待橋の身に染むこ
かこちし言葉あはれにて
實方朝臣ぞおもはるゝ
蘇我野田土氣の驛々を
越ゆれば大網本國寺
左に折れて東金は
一角丸に名も高し

思ケ浦

君待橋

本國寺

大網本納
茂原岩沼

一ノ宮

大東

本納、茂原あそこにして

岩沼越せば濱近く

一の宮川打ち渡り

一の宮には續くなり、

玉前神社に額づきつ

大東崎に打ち出でて

海夫が網ひく状況を

見るもまたよきかめなり、

一ノ宮川

玉前神社

大東崎

長者町
大原

夷隅の河原束の間に

越して迎ふる長者町

大原驛よりその先方は

まだ鐵道の便あらず、

西の雲間に聳ゆるは

房總一の鹿野山

九十九谷や十州を

一目にのぞむ好き景色、

夷隅川

鹿野山

九十九谷

十州一覽

船に賑ふ木更津や
 富津の沖に立つ浮標
 數へ盡くせば此方には
 鋸山のいかめしさ
 山に響ける日本寺の
 鐘に午睡の夢さめて
 更に彼方を見渡せば
 岩井につらく勝港

木更津
 富洲岬
 鋸山
 日本寺
 岩井海水
 浴場
 勝港

後を守る富山は
 八犬傳に名も高し
 大武の岬洲の崎を
 右と左に控えたる
 鏡ヶ浦の静波に
 浴塵洗ふ諸人は
 北條町や館山の
 旅寢に夢や結ぶらん

富山
 大武岬
 洲崎
 鏡ヶ浦
 北條町
 館山町

千葉街
四ツ街
道
佐倉
八街
日向
成東

松尾
横芝

東金驛とうきんえきに立ち戻りたちもどり

成東なるの町まちの其そのの間まひらを

僅わずかかたどればこれぞこれ

銚子ちうしにつゞく總武線そうぶせん

不動院ふどういんこて名なも高たかき

行基ぎやうき菩薩ぼさつの杖つゑのあこ

松尾まつおの蘭草らんそう織おる蓆むしろ

敷しく横芝よこしばの西にしと北きた

不動院

八日市場

千潟

芝山村しばやまむらの觀音寺くわんおんじ

巨勢こせ金岡かねおかが毫この跡あと

三尊佛さんそんぶつの寶物ほうぶつは

仁王にわうと共ともに著いちじるし

栗山川くりやまがはを打うち渡わたり

八日市場やうかいちばも早はやや過すぎて

八萬石まんごくの干潟ひがた面もに

茂しげるは甘藷かんしょ落花生らくたんせい

芝山村觀音寺

栗山川

櫻の匂ふ旭日町

紅葉めでたき秋はなほ

こひ來る人もかずくに

いこにぎほふる飯岡や

飯岡岬と大東の

崎この海岸十六里

六町一里の支那制に

ならひて稱ぶか九十九里

干鰯魚油に搾粕

幾萬圓の産額に

國を富ませる海人が身の

たのしさいかにご思ふなり

猿田の先方の松岸に

近くたすむ燈臺は

犬吠岬の遠近を

照すや暗の波の上

間もなく着くや銚子港

坂東太郎の落口に

林と立てる帆檣は

東國一と知られたり、

汽車をばこゝに見捨てつゝ、

醤油縮布の名産を

求めて移る川蒸汽

利根の流をさかのぼり

利根川

行けば常陸の霞浦

菖蒲咲くてふ潮來町

鯉に名高き十六の

島々右に眺めつゝ

着くは何處ぞ良き酒を

盛んに造る對岸の

佐原驛なり歸り路を

いそがば汽車にのるべきか、

霞浦

潮來町

十六島

近く南に經津主の

命を祀るこころなる

香取の社伏し拜み

旅の無事をば祈るなり、

郡滑川滑らかに

めぐる車にまかしつゝ

師賢朝臣のあと、聞く

小御門神社を遙拜し

香取神社

小御門神社

滑郡川

滑川

成田

過ぐればあづまに名も高く

いよゝさかりに成田なる

新勝寺にぞまうでんこ

來る人多き成田驛、

石階登れば二王門

門にかけたる成田山

三字の額は其の昔し

上人道恕の筆こかや、

新勝寺

なほ石階を登りつゝ

左右に置ける奉納の

石燈籠や碑の

數に驚きいよゝなほ

登り詰むれば不動尊

安置しまつる本堂の

善美盡せる結構に

幾百千の燈光は

あたりまばゆくかゝやきて

人の眼を射る如し、

堂の右手には三重の

塔と鐘樓峙てり、

それよりおくに踏み入れれば

苔蒸す道は滑かに

奥の院なる光明堂

松杉くらき中にたち

護摩の烟りは絶間なく

鈴鐸の響きは鏘々と

まづかにきこえこしへに

浮世の塵をよそにせり、

實にや道譽はそのはじめ

法器の不満を歎きしが

祈請殆んど一百の

日數重ねし其の夜さに

利劍を呑むと見たる夢

醒めての後は今までこ

變りて智識道德の

名譽を得しこつたへたり、

義民の名譽かくれなき

宗吾神社に詣でんも

こゝより僅か一里半

印幡湖畔の公津村

宗吾神社

公津村

東勝寺内の奥の院

東勝寺

手向くる香華常絶えず

酒々井
佐倉

酒々井を過ぎて佐倉町

喇叭の聲もいさぎよく

將門山の古城址に

將門山

照る月すこく夏寒し

銚子に續く成東まで

佐倉
八街
日向
成東
銚子

行くは八街日向驛

四ツ街道

はや我が旅は房總を
縫ひつ廻りつおはりたり
四ツ街道を越え行けば
もこ來し道の千葉の驛

千葉
本所

明治三十三年八月卅日印刷
明治三十三年九月六日發行

定價金六錢

著作者

尙榮堂編輯部

發行者

小川寅松
東京市京橋區南紺屋町十八番地

發行所

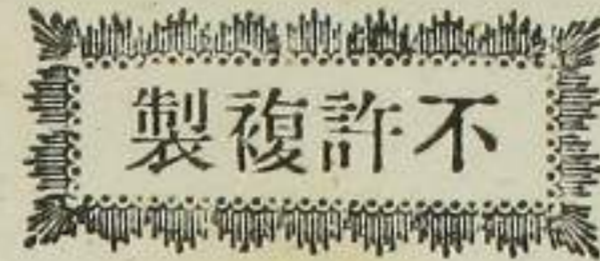
小川尙榮堂
同京橋區南紺屋町十八番地

印刷者

中野銚太郎
同京橋區木挽町九丁目卅番地

印刷所

帝國印刷株式會社
同京橋區築地三丁目十五番地



地理
育理
鐵
道
唱
歌

第一 上野青森間
第二 上野高崎信越間
第三 田沼水戸岩沼間
第四 本所銚子佐原大原東金間